

# 曾於文藝

うたごよみ

題字

末吉文化協会会員  
瀬戸口 淳氏

## 俳句

### 末吉俳句会

年輪に冬日の温みあるベンチ

永里 瑞代

ゴーカートコースに沿へる野菊白

西村 セツ

落葉の香放ちてをりし吹き溜り

堀之内 美喜

### 大陽俳句会

小春日や里山に降る鳶の笛

福村 よう子

元朝や手摺の雫金と銀

岩重 みどり

山気澄む山には山の石路の花

鍋山 美智子

## 短歌

### 末吉短歌会

恒例の弥五郎どんのイナバウアー  
すこし腰痛ぶり返しそう

宝蔵 弘二

あんなにも探し求めし補聴器の  
出で来し昼を笑ひてしまふ

長倉 佳津子

未然形で取り残されし事柄が  
浮遊する夜半の闇の深さよ

森岡 ちどり

### 大陽短歌会

芋に粟米も混じりし日を言えば  
娘は素晴らしき食育という

竹田 娃子

内蔵のアクリルレンズに抜けゆく  
視界に慣れゆくまでの幾日

広川 ミドリ

寒風に南天の実の色づきて  
朝の光を受けてきらきら

安藤 フヂ子

### 曾於やごろう短歌会

幾重にも覆い被さる難題を  
風神だったら吹き飛ばすかも

桐原 久美子

車中より岬の馬見て母はふと  
むかし飼育の馬の名を呼ぶ

小原 忠教

### 財部短歌会

その昔馴染み昭和のメロディーに  
窓辺の級友の面影しのぶ

杉村 リカ

手入れなき金木犀は大きくて  
私はここよと芳香放つ

児玉 次雄

### 薩摩狂句

#### にがごい会末吉支部

折目節日 坐い間もなか  
本家嫁

西留 辰子

今ん亭主が 一生相手かち  
溜息ちつ

胡摩ヶ野 べぶまつ

不精物 婆は横目で  
綿埃い

山中 ミツどん

届じた歳暮 北海道端孫  
爺婆涙

高瀬 博多夜舟

態度悪し 怪しどち警察  
毘逮捕つ

浜田 一好

元氣婆も 旅行で転倒  
ちんがらつ

桐野 奈世